

資料編

児童による適切なコース選択と操作的な活動で分かりやすく楽しく学び、算数の苦手意識を軽減する
習熟度別少人数学習「基礎コース」の授業づくりの提案 ＜課題2、課題3の解決例＞

長期研修員 磯貝 博昭

I 単元の指導と評価の計画 (全13時間 習熟度別少人数学習「基礎コース」)

時間	○ねらい ・主な学習活動	・支援及び指導上の留意点	○評価規準 (評価方法) ◎「十分満足できる」と判断される状況 ☆「努力を要する」児童への手だて
1 T T による 学年 一斉 指導	<p>○広さの概念を理解し、広さの比べ方や表し方についての関心を高め、比べ方をいろいろな方法で考える。</p> <p>・実線で囲まれた図形と囲まれていない図形について、広さが決められるものと決められないものに弁別する。</p> <p>＜操作的な活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ものの平面部分を指や手のひらでなぞることで、「広さ」の確認をする。 ・2枚の T シャツを直接比較する。 ・離れた場所に描かれた2つの星形図形の大きさを、比べる方法を考える。 ・児童の言葉で、板書にものの広さ比べの方法をまとめる。 <p>＜操作的な活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教え棒 12 本を使って、周りの長さが同じになるいろいろな形を作る。 ・できあがった図形を何人かが発表する。 	<p>・広さの概念を理解するために、図形の内側を塗らせることで、広さの決まるものと決まらないものに気付くようにする。</p> <p>・本単元で扱う広さとは、「線で囲まれて外側と内側の区別がはっきりし、その広さを数で表せるもの」ということを、確認する。</p> <p>＜操作的な活動の位置付け＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな小さなものにも、「広さ」があることを確認する。 ・2つのものを重ねることで、広さが比べられることを確認する。 ・重ねられない2つのものの広さを比べる場合、紙に写し取ることによって広さ比べができることに気付かせる。 <p>＜操作的な活動の位置付け＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時の陣取りゲームに使用する、図形(ポリオミノ)を数多く自分たちで作らせたい。 ・全 25 種類を児童から出すには時間がないので、考えられる児童は、家庭で考えてくるよう伝える。 	<p>【知識・理解】</p> <p>○既習の量を比べる方法と関連付けながら、広さの直接比較の方法に気付いている。</p> <p>(活動の様子、ワークシート)</p> <p>◎既習の量を比べる方法と関連付けながら、広さの直接比較、間接比較の方法に気付いている。</p> <p>☆用意した大小の正方形を重ねて見せる。</p>
2 T	<p>・前時の復習をする。</p> <p>・考えてきた図形(ポリオミノ)を、掲示用の 12 本の棒を使って黒板で発表する。</p> <p>○ポリオミノを使った陣取りゲームの活動を通して、元になる広さの必要性に気づき、広さの単位「平方センチメートル (cm²)」を知る。</p> <p>＜操作的な活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・25 種類のポリオミノを使い、座席が隣の児童同士で、陣取りゲームをする。 	<p>・時間の都合上、いく人かが発表できたら、全25種類を提示する。</p> <p>・工作用紙の上で、ジャンケンに勝った方から先に、25種類の中から好きな形を1個ずつ右図のように陣地として敷き、次に負けた方が残ったポリオミノの中から一つ選ぶ。2回目のジャンケン後は、自分の元の陣地に線で接するように新たな陣地を広げていく。</p> <p>＜操作的な活動の位置付け＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのポリオミノは1辺が1cmの正方形が組み合わさったものであることに気づき、マス目を書 	<p>【数学的な考え方】</p> <p>○陣取りゲームで勝つために元になる広さに着目して、より広いポリオミノを選ぼうと考えている。</p> <p>(ポリオミノを敷いた工作用紙、活動の様子)</p> <p>◎陣取りゲームで勝つためにゲームの途中で、個々のポリオミノの広さを意識しながら、自分の陣地の広さを数えている。</p> <p>☆ポリオミノに線を引かせ、</p>

<p>1 による 学年 一斉 指導</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・陣地が決まったら、それぞれの陣地の広さについて話し合う。 ・25種類のポリオミノは、全て同じ広さを考える。 ・広さが同じポリオミノに仲間分けをする。 ・広さの基準値をもとに表したものを「面積」という言葉で表すことを確認する。 ・広さ比べの元になる広さは、どんな広さか考える。 ・広さの単位の基である1平方センチメートルは、縦1 cm 横1 cmの正方形の広さであることを知る。 ・1 cm²の正方形に触り、その量感を味わう。 ・児童の言葉で、板書に本時の学習をまとめる。 <p><コース選択> ・次時からのコース選択をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・き込み数えることで、広さを比べることができることに気付かせたい。 ・周りの長さが同じでも、広さは同じにならないことに気付かせるようにする。 <p>・普通単位cm²を使うことで、どんな広さも表せることに気付くようにする。</p> <p><コース選択の位置付け> ・学習状況の自己評価をさせ、選択の目安を与えて、適正なコース選択ができるようにする。</p> <p>*意識の変容調査1回目</p>	<p>どれが広いのかを考えられるようにする。</p>
<p>3 2 コース による 習熟 度別 学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までの復習をする。 ○観察や等積変形の操作を通して、1 cm²が何十分とみて面積を求めればよいということに気付く。 <p><操作的な活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・面積が1 cm²の長方形や三角形を正方形に変える。 ・1 cm²の正方形の等積変形をする。 ・12 cm²になる動物の図形を方眼紙上に作図する。 ・提示された蝸牛や蟹の形の広さを数字で表す。 ・教科書の問題①に取り組む。 ・用意された複数の補充問題を選択して、取り組む。 ・児童の言葉で、板書に本時の学習をまとめる。 <p><コース選択> ・次時からのコース選択をする。</p>	<p><操作的な活動の位置付け></p> <ul style="list-style-type: none"> ・等積変形による面積の保存性について理解できるようにする。 ・どの形も1 cm²の単位をそのまま使うことができないので、(面積を変えずに、形を変えること=等積変形)をして、面積を求めることに気付かせるようにする。 ・直線だけでなく、曲線による例も出して、変形への興味を抱かせるようにする。 ・正方形12枚を並べかえることで、動物の図をイメージ化してから、方眼紙上に書くように伝える。 ・マス目を数えて、広さが求められることを確認するようにする。 ・学習の振り返りを、ワークシートに書くように伝える。 <p><コース選択の位置付け> ・学習状況の自己評価をさせ、選択の目安を与えて、適正なコース選択ができるようにする。</p>	<p>【数学的な考え方】</p> <p>○形を変えても面積は変わらないことを意識しながら、1 cm²の等積変形を考えている。 (活動の様子、ワークシート)</p> <p>◎形を変えても面積は変わらないことを意識しながら、1 cm²の等積変形や、テーマに沿った12 cm²の図形を考えている。</p> <p>☆大きな正方形を、自由に切れさせ、切りはなした部分を別の部分につなぎ合わせる活動を通して、具体的に変形した図形を考えられるようにする。</p>
<p>4 2</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の復習をする。 ○観察や操作を通して、長方形、正方形の面積を求める公式を理解する。 <p><操作的な活動></p> <ul style="list-style-type: none"> ・4枚の色画用紙を重ねてできる隙間の広がり方を見て考え、面 	<p><操作的な活動の位置付け></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室の前に児童を集め、教師が色紙を操作するのを間近で見て、隙間の広がりを実感させるようにする。 ・隙間の正方形1つの大きさが1 cm²であることに気付くようにする。 	<p>【数学的な考え方】</p> <p>○長方形や正方形の面積の求め方を、辺の長さに着目して考えている。 (活動の様子、ワークシート、ホワイトボード)</p> <p>◎長方形や正方形の面積を求</p>

<p>コースによる習熟度別学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 積が二次元に広がる量であることを理解する 提示された長方形の中の正方形のマス目の数を数える。 提示された正方形の中のマス目の数を数える。 マス目のない長方形の面積の求め方を考える。 長方形・正方形の面積の公式を言葉でまとめる。 公式にまとめるよさを考える。 児童の言葉で、板書に本時の学習をまとめる。 <p><コース選択> ・次時からのコース選択をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 提示された長方形が、1 cm^2の正方形を敷き詰めてできていることを確認する。 かけ算を使って、数えることが、早いことに気付くようにする。 ホワイトボードで、自分の考えを発表できるようにする。 辺の長さがわかれば、求積できることに気付かせ、公式を板書としてまとめる。 <p><コース選択の位置付け> ・学習状況の自己評価をさせ、選択の目安を与えて、適正なコース選択ができるようにする。</p>	<p>めるには、関数関係にある縦、横の長さを測って求められることを単位の考えをもとに説明し、公式を導き出している。</p> <p>☆色画用紙を1 cm^2マスの方眼の上に置き、最初の点である隙間を1 cm^2と考えることで、点が縦に何マス分、次に横に何マス分広がっていくことを確認し、面積を表すマス目の数が縦マス×横マスの計算で求められることに気付くようにする。</p>
<p>5 2 コースによる習熟度別学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時の復習として、教科書 P57 の①～②の問題に取り組む。 ○長方形、正方形の面積の公式を活用する活動を通して、面積から辺の長さを考えることができる。 提示された12 cm^2の長方形の縦と横の長さを、その面積から考えて発表する。 面積と縦の長さがわかっている長方形の横の長さを考える。 教科書の問題や補充問題に取り組む。 児童の言葉で、板書に本時の学習をまとめる。 <p><コース選択> ・次時からのコース選択をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 既習事項である、長方形の面積の公式を元にして、辺の長さを考えられるようにする。 ホワイトボードを使い、自分の考えを発表できるようにする。 時間に余裕のある児童には、長方形の6つのパターン全てを考えられるようにする。 九九では辺の長さを直観的に求められないことに気づき、わり算を使うことで、長さを求められることに気付くようにする。 <p><コース選択の位置付け> ・学習状況の自己評価をさせ、選択の目安を与えて、適正なコース選択ができるようにする。</p>	<p>【表現・処理】</p> <p>○公式を用いて辺の長さを求めることができる。 (活動の様子、ホワイトボード、ワークシート)</p> <p>◎公式を用いて辺の長さを求めることができるとともに、辺の長さの単位が異なる際には、cmをそろえてから計算することに自ら気付く。</p> <p>☆問題の条件をかけ算の公式にあてはめ、横の長さを求めるには、公式をわりにかえるよう助言する。</p>
<p>6 2 コースによる習熟度別学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時の復習をする。 ○複合図形の求積方法の考え方を話し合う活動を通して、長方形に分割する考えや欠損部分をひく考え方に気付く。 提示された複合図形の面積の求め方を考える。 <p><操作的な活動></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをホワイトボードを使って、発表する。 友だちの発表を聞き、3通り求め方を理解する。 自分の好きな求め方で求積する。 児童の言葉で、板書に本時の学習をまとめる。 <p><コース選択> ・次時からのコース選択をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 求積方法の考え方については、次時につながるよう、児童の言葉でネーミングをする。 <p><操作的な活動の位置付け></p> <ul style="list-style-type: none"> ホワイトボードには、計算まで書くよう指示する。 求積方法の多様な考え方に気付くようにする。 友だちの発表を聞いた後、意図的な指名をして同じ内容を発表させ、聞いた考えの理解の状況を、何度も確認するようにする。 簡単な方法の根拠となる部分で自分の言葉で発表するよう指示する。 <p><コース選択の位置付け> ・学習状況の自己評価をさせ、選択の目安を与えて、適正なコース選</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>○既習事項である公式を想起して、公式を用いて複合図形の面積を求めようとしている。</p> <p>◎既習事項である公式を想起して、長方形や正方形に分割などをして面積を求める方法をいくつか考えようとしている。 (活動の様子、ホワイトボード、ワークシート)</p> <p>☆公式を使って求積できる図形を想起させ、児童用の複合図形で、その長方形や正方形に見える部分を考えるよう助言する。</p>

		<p>扱ができるようにする。</p>	
7	<p>○複合図形の求積方法を考え、話し合う活動を通して、長方形の面積をもとにして求め方を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長さの書かれていない（条件不足の）複合図形の面積を求めるために、最低何カ所の辺の長さが分かれば求積できるかを考える。 <p>＜操作的な活動＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・求積に必要な辺の数を予想する。 ・必要な辺の組み合わせを考える。 ・自分の考えをホワイトボードを使って、発表する。 ・友だちの発表を聞き、3つの求め方を理解する。 ・それぞれの辺の長さを測り、3つの方法で求積する。 ・最も簡単な求積方法はどれかを考え、その理由を発表する。 ・より複雑な複合図形の面積を求める。 ・教科書P58の問題に取り組む。 ・用意された複数の補充問題を選択して、取り組む。 ・児童の言葉で、板書に本時の学習をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3本の辺の長さでは、面積が求められないことを黒板で確認し、最低でも4本の辺の長さが必要な事に気付くようにする。 ・前時の学習から、複合図形を分割して考える方法や、複合図形を含む大きな長方形から、必要のない部分を引く方法を想起できるようにする。 ・想起する時点で、児童が前時でネーミングした考え方の名称を使うようにする。 <p>＜操作的な活動の位置付け＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちの発表を聞いた後、意図的な指名をして同じ内容を発表させ、聞いた考えの理解の状況を、何度も確認するようにする ・板書の問題と同じ図形をワークシート上に用意し、3通りの求積ができるようにする。 ・自分の考えの根拠を、理由を踏まえて発言するように指示する。 ・正確な求積ができているか確認するために、丁寧な机間支援をする。 ・学習の感想を、ワークシートに書くように伝える。 <p>*意識の変容調査2回目</p>	<p>【数学的な考え方】</p> <p>○複合図形の面積を求めるのに必要な条件を1つ考えることができる。 (活動の様子、ホワイトボード、ワークシート)</p> <p>◎複合図形の面積を求めるのに必要な条件を複数考えることができる。 ☆具体的にどの辺の長さが必要なのかを1つずつ辺を塗らせることで、計算で求積できる条件を整理できるようにする。</p> <p>【表現・処理】</p> <p>○複合図形の面積を求めることができる。 (活動の様子、ホワイトボード、ワークシート)</p> <p>◎複合図形の面積を様々な方法で求めることができる。 ☆基になる長方形が複合図形のどの部分になるのかを考えられるよう助言する。</p>
8	<p>○学習内容の理解を深める。</p> <p>＜コース選択＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次時からのコース選択をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね満足できると判断される児童には、用意した複数の補充・発展問題を選択して、取り組めるようにする。 ・努力を要すと判断される児童には、2人の教師が連携を図りながら、基礎基本の定着に努めるようにする。 ・次時以降のより広い広さの学習につながるように、「どんな広さの勉強がしたいですか」という項目を、ワークシートに用意しておく。 <p>＜コース選択の位置付け＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の自己評価をさせ、選択の目安を与えて、適正なコース選択ができるようにする。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>○学習した考え方を使って、問題を解こうとしている。 (活動の様子、ワークシート)</p> <p>◎これまでの学習プリントを見返したり、友だちや教師に質問したりして、最後まで問題を解こうとしている。 ☆学習プリントから、ヒントを探してみるように助言する。</p>
9	<p>○方眼紙で1㎡を作る操作活動を通して、面積の単位1㎡や㎡とcm²の関係について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1cm²より大きい単位の必要性について考える。 ・実際に教室の縦と横の長さを測り、何cmであるか知る。 ・1cm²の上の単位を予想する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・広い広さを表すには1cm²ではたいへんだということを実感させ、より大きい単位の必要性を考えさせるようにする。 ・1cm²は1辺が1cmの正方形が表す広さと言うことを確認する。 ・1m = 100cmという長さの考えから離れるため、面積は縦と横の長さで決 	<p>【数学的な考え方】</p> <p>○100cm²の方眼紙を縦におよそ何枚、横におよそ何枚敷き詰めたらよいか、考えている。 (活動の様子、方眼紙の1㎡、ワークシート)</p> <p>◎100cm²の方眼紙を縦におよそ何枚、横におよそ何枚敷き詰めたらよいか、考えている。</p>

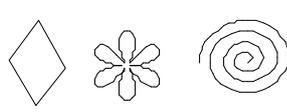
<p>よる習熟度別学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 100 c m²の正方形の1辺の長さを考える。 ＜操作的な活動＞ m²とc m²の関係について理解するために、1 m²の広さを方眼紙で作る。 1枚 100 c m²の方眼紙をグループで組み合わせ、1 m²の広さの正方形を作り、1 m² = 10000 c m²を体感する。 全部の班で作業が終了したら、100 × 100で、1 m²の中に1 c m²が1万個あることを全員で確認する。 できた1 m²に座らせるなど、その量感を味わう。 児童の言葉で、板書に本時の学習をまとめる。 ＜コース選択＞ 次時からのコース選択をする。 	<p>まるということを確認できるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 100 c m²は1辺が10cmの正方形であることを確認し、1 m²より小さすぎることをわかるようにする。 ＜操作的な活動の位置付け＞ 1つのグループに100枚以上の方眼紙を用意する。(方眼紙は1枚、10 cm × 10 cm.) 作業時間を次時まで十分保障することで、どのグループも作り上げられるように、最後まで頑張らせたい。 作業の早い児童には、復習できるような学習プリントを複数種類用意する。 ＜コース選択の位置付け＞ 学習状況の自己評価をさせ、選択の目安を与えて、適正なコース選択ができるようにする。 	<p>よそ何枚、横におよそ何枚組み合わせるのかあらかじめ見当をつけて、必要な方眼紙を手に入れて作業している。</p> <p>☆1 m²の長さは1つの辺が何cmになるのか確認し、1辺が10cmの正方形をその1辺分を敷いてみることで100 c m²の方眼紙が何枚ぐらい必要か考えられるようにする。</p>
<p>10 2 コースによる習熟度別学習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 前時の復習をする。 ○地図上で、大きい単位面積を確認する活動を通して、「平方キロメートル (k m²)」とk m²とc m²の関係について理解する。 1 m²より広い広さを学習することを知る。 1 k m²という言葉から、その広さを予想し、何m²か考える。 ＜操作的な活動＞ 1 k m²の広さを実感するため、会議室にある東横野地区の地図に1 k m²の範囲を表す正方形の枠をあてて、その広さを確認する。 1 a という言葉と1 a = 100 m²であることを知る。 1 ha という言葉と、1 ha = 10000 m²であることを知る。 教科書の問題に取り組む。 児童の言葉で、板書に本時の学習をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の作業が全員終わってから、本時の課題に取り組めるようにする。 1 m²より広い広さを表す必要性を考慮できるようにする。 1 k m²の正方形の1辺の長さを考えるようにする。 ＜操作的な活動の位置付け＞ 会議室の地図は、児童の家が元々記載されているものなので、1 k m²の広さがより実感できると思われる。 活動の興味関心を高めるために、自分の家を中心とした1 k m²の正方形の枠の内にある、同学年の友だちの家を調べさせたい。 1 a は、1辺の長さが10 mの正方形であること、1 ha は正方形の1辺の長さが100 mであることを知り、1 a や1 ha の正方形の枠も地図上に置くことで、その広さも確認できるようにする。 時間に余裕のある児童には、用意した複数の補充問題を択して、取り組めるようにする。 *意識の変容調査3回目 	<p>【知識・理解】</p> <p>○m²とc m²、k m²とm²の関係を理解している。</p> <p>◎m²とc m²、k m²とm²の関係を理解し、a やhaも含んだ簡単な単位換算ができる。(活動の様子、ワークシート)</p> <p>☆百マスある正方形を見せ、その1マス分の辺の長さの条件を変えた場合、正方形が表す広さを考えられるよう助言する。</p>
<p>11</p>	<p>○学習内容の理解を深める。</p>	<p>TTによる学級一斉指導</p>	
<p>12</p>	<p>○学習内容の理解を深める。</p>	<p>TTによる学級一斉指導</p>	
<p>13</p>	<p>○評価テストに取り組む。</p>	<p>*習熟度別少人数学習に関わる児童の意識調査 (SQS)</p>	

II 本時の展開

第1時 (1 / 13 時間)

○ねらい…広さの概念を理解し、広さの比べ方や表し方についての関心を高め、比べ方をいろいろな方法で考える。

準備……ワークシート、Tシャツ2枚、星形図形を写し取る紙、大小の正方形、ハンカチ、タオル、数え棒12本(46組)、掲示用のポリオミノ(25種類)。

時 間	主な児童の活動 □児童の予想される反応 ★数学的な考え方に気付く活動	支援及び指導上の留意点 *コース選択に関わる手だて	○評価規準(評価方法) ◎「十分満足できる」と判断される状況 ☆「努力を要する」児童への手だて
18	<p style="text-align: center;">学 年 T T 指 導</p> <p>・「広い」という言葉の意味を考え、「広さ」の勉強を知ることを知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">「広い」という言葉を知っているよね。どんな時に使うかな。</div> <p>□あの人は広い心をもっている □校庭は広い。</p> <p>・実線で囲まれた図形と囲まれていない図形(図1)について、広さの決まるものと、決まらないものに弁別する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">体を使って広い「広さ」を表すとしたら、どんなポーズをとるかな。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">みんなのノートの「広さ」を、手で触ってみよう。</div> <p>・物の平面部分を指や手のひらでなぞることで、「広さ」の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">布を織って、小さくしても広さはあるのかな。</div> <p>・用意したタオル、ハンカチを二つ折りにしながら、どの部分が「広さ」かを確認する。 ・自分の消しゴムを観察して、「広さ」を確認する。</p>	<p>・児童から出てきた文章を板書する。</p> <p>・広さの概念を理解するために、線の内側を塗らせることで、広さの決まるものと決まらないものに気付くようにする。</p> <p>・本単元で扱う広さとは、「線で囲まれた外側と内側の区別がはっきりし、その広さを数で表せるもの」ということを、確認する。</p> <p>・両手をいっぱい広げるポーズをとらせ、「広さ」は平面の縦・横への広がりであることをイメージできるようにする。</p> <p>・最初は、ノート、次に机、筆箱身近なものの平面部分を使って、「広さ」の部分を確認できるようにする。</p> <p>・どんな小さなものにも、「広さ」があることを確認する。</p>	<p>【知識・理解】</p> <p>○既習の量を比べる方法と関連付けながら、広さの直接比較の方法に気付いている。</p> <p>(活動の様子、ワークシート)</p> <p>◎既習の量を比べる方法と関連付けながら、広さの直接比較、間接比較の方法に気付いている。</p> <p>☆用意した大小の正方形を重ねて見せる。</p> <p style="text-align: center;">図1 広さの決まるもの 決まらないもの</p> <div style="text-align: center;">  </div>
12	<p>★広さ比べの方法に使われている直接比較や間接比較(操作の考え)に気付く。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">同じ形の2枚のTシャツ、どちらが広いでしょうか。また、どうやったら比べられますか。</div> <p>★用意された大小の同種類のシャツの広さを比べる方法を考える。図2</p> <p>★前の黒板に描いた星形の図形</p>	<p>・ワークシートに比べる方法の自分の考えを書かせるようにする。</p> <p>・2つのものを重ねることで、広さが比べられることを確認する。</p> <p>・指名した児童に、大きいTシャツの上に小さなTシャツを重ねさせて、全体に説明できるよう助言する。</p> <p>・ワークシートに比べる方法の</p>	<p style="text-align: center;">図2 直接比較の問題</p> <div style="text-align: center;">  </div>

15

と後ろの黒板に描いた相似の星形の図形を比べる方法を考える。図3

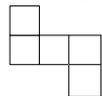
前の黒板に描かれた星形と後ろの黒板に描かれた星形は、どちらが広いでしょうか。また、どうやったら比べられますか。

★数え棒12本を使って、周りの長さが同じになるいろいろな形を作る。

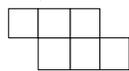
数え棒を12本使ってできる形の種類を、できるだけ数多く考えよう。

- ・考えられた形をワークシートに書き写す。
- ・できあがったポリオミノを何人かが発表する。

ペントミノ



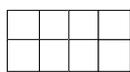
ヘキサミノ



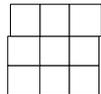
ヘプトミノ



オクトミノ



ノナトミノ

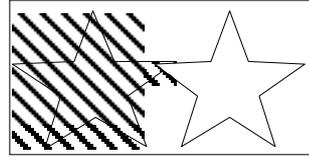


他の形も何種類見つけられるか、家で挑戦してみよう。

自分の考えを書かせるようにする。

- ・重ねられない2つのものの広さを比べる場合、紙に写し取ることで広さ比べができるようにする。

図3 間接比較の問題



- ・棒と棒のつながる部分は、直角か平らであることを確認する。斜めでつなげないことを確認する。

- ・裏返しにしても同じ形の場合は、同じ種類とみることを確認する。

- ・棒を使ってできるような、正方形をつなげた図形をポリオミノと呼ぶ。この中で周りの長さが12本分となるものは、ペントミノ（5つの正方形がつながったもの）、ヘキサミノ（同6つ）、ヘプトミノ（同7つ）、オクトミノ（同8つ）、ノナトミノ（同9つ）、全25種類ある。

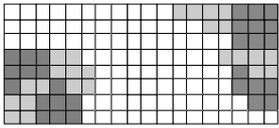
- ・考えられたポリオミノを書き写すワークシートは、無地のものと、ジオボード状のものを用意し、児童が書きやすい方を選択できるようにする。

- ・全25種類を児童から出すには時間がないので、他の形も家庭で考えてくるよう伝える。

第2時 (2 / 13 時間)

○ねらい…ポリオミノを使った陣取りゲームの活動を通して、基になる広さの必要性に気付き、広さの単位「平方センチメートル (c m²)」を知る。

準備…数え棒 12 本 (46 組)、掲示用のポリオミノ (25 種類)、掲示用棒 (12 本)
陣取りゲーム用ポリオミノ (23 組) 陣取りゲーム用の台紙 (工作用紙)、
ワークシート、1 c m²の正方形 (4 6 人分)。

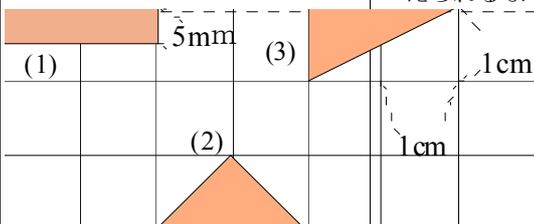
時 間	・主な児童の活動 <input type="checkbox"/> 児童の予想される反応 ★ 数学的な考え方に気付く活動	・支援及び指導上の留意点 * コース選択に関わる手だて	○ 評価規準 (評価方法) ◎ 「十分満足できる」と判断される状況 ☆ 「努力を要する」児童への手だて
5	<ul style="list-style-type: none"> 前時の復習をする。 家庭で考えてきたポリオミノを、掲示用の 12 本の棒を使って黒板で発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「広さ」の概念、物の広さの表す部分、直接比較、間接比較の方法などを児童の言葉で発表できるようにする。 時間の都合上、いく人かが発表できたら、全 25 種類を提示する。広さはバラバラにして提示するようにする。 	
20	<p>ポリオミノを使って陣取りゲームをしよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 25 種類のポリオミノを使い、座席が隣の児童同士で、陣取りゲームをする。 ★ 自分の陣地を最大にするために、適切な広さのポリオミノを選ぶことができる。 <p>ジャンケンを 8 回程度した後の陣地の広さについて話し合う。</p> <p>自分の陣地と相手の陣地の広さを比べるにはどうしたらよいでしょうか。</p> <p><input type="checkbox"/> 貼り付けてしまったので、比べにくい。 <input type="checkbox"/> マス目をかき込んで、数えればよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 二人一組に全 25 種類の点線の書き込まれていないポリオミノを用意する。 工作用紙の上で、ジャンケンに勝った方から先に、25 種類の中から好きな形を 1 個ずつ右図のように陣地として敷き、次に負けた方が残ったポリオミノの中から一つ選ぶ。2 回目のジャンケン後は、自分の元の陣地に線で接するように新たな陣地を広げていく。 T 2、T 3 が師範をすることで、陣取りゲームのルールを確認できるようにする。 敷き詰めたポリオミノは、工作用紙にはりつけるようにする。 それぞれのポリオミノは 1 辺が 1 cm の正方形が組み合わさったものであることに気付き、マス目を書き込み数えることで、広さを比べることができることに気付かせたい。 用意されたポリオミノのうち、正方形 (ノナトミノ 1) と長方形 (オクトミノ 1 とペントミノ 1) のものは、面積の公式の学習時に振り返れるように、色画用紙で作っておく。 	<p>【数学的な考え方】</p> <p>○ 陣取りゲームで勝つために基になる広さに着目して、より広いポリオミノを選ぼうと考えている。 (ポリオミノを敷いた工作用紙、活動の様子)</p> <p>◎ 陣取りゲームで勝つためにゲームの途中で、個々のポリオミノの広さを意識しながら、自分の陣地の広さを数えている。</p> <p>☆ ポリオミノに線を引かせ、どれが広いのかを考えられるようにする。</p>
10	<ul style="list-style-type: none"> 25 種類のポリオミノは、全て同じ広さかを考える。 周りの長さが数え棒 12 本分のポリオミノのそれぞれの広さを比べてみよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 広さと周りの長さの関係について考えさせることで、面積の概念形成をより確かなものとする。 黒板上で 25 種類のポリオミノ 	<p>陣取りゲームの例</p> 

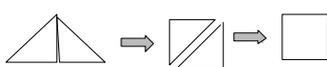
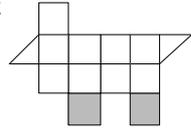
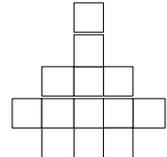
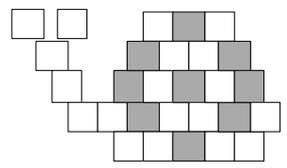
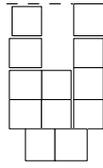
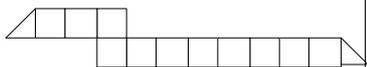
10	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広さが同じポリオミノに仲間分けする。 	<ul style="list-style-type: none"> を操作して、仲間分けできるようにする。 ・ 周りの長さが同じでも、広さは同じにならないことに気付くようにする。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 広さを数で表したものを「面積」という言葉で表すことを確認する。 ・ 広さ比べの基になる広さは、どんな広さか考える。 ・ 広さの単位の基である 1 cm^2 は、縦 1 cm 横 1 cm の正方形の広さであることを知る。 ・ 1 cm^2 の正方形に触り、その量感を味わう。 ・ 児童の言葉で、板書に本時の学習をまとめる。 ・ 次時からのコース選択をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普遍単位 1 cm^2 を使うことで、どんな広さも表せることに気付くようにする。 ・ 面積の乗法性の性質を学習したときに、「$\text{cm} \times \text{cm} = \text{cm}^2$」として印象づけるため、この時点では、「$\text{cm}^2$」という書き方は教えないようにする。 ・ 学習の振り返りを、ワークシートに書くように伝える。 ＊ 学習状況の自己評価をさせ、選択の目安を与えて、適正なコース選択ができるようにする。

第3時 (3 / 13 時間)

○ねらい… 観察や操作活動を通して、 1 cm^2 が何こ分とみて面積を求めればよいことに気付く。

準備… 折り紙、ワークシート、掲示用正方形カード (12 枚)、掲示用動物、掲示用 UFO、
 掲示用へび、掲示用羊、 1 cm^2 の正方形 (46 人分)。

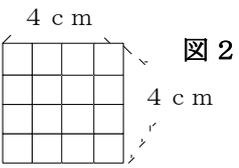
時 間	<ul style="list-style-type: none"> ・ 主な児童の活動 □ 児童の予想される反応 ★ 数学的な考え方に気付く活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 支援及び指導上の留意点 ＊ コース選択に関わる手だて 	<p>○ 評価規準 (評価方法)</p> <p>◎ 「十分満足できる」と判断される状況</p> <p>☆ 「努力を要する」児童への手だて</p>
7	<p>習熟度別少人数指導 (1 学級分割)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までの復習をする。 ・ 黒板に掲示された正方形を見て、その枚数から広さを確認する。 ・ ノートや教科書の広さを 1 cm^2 で数える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普遍単位 1 cm^2 を使って、面積を表すことができることを確認する。 ・ 1 cm^2 の正方形をノートに置くことで、およその広さを数えられるようにする。 	<p>【数学的な考え方】</p> <p>○ 形を変えても面積は変わらないことを意識しながら、1 cm^2 の等積変形を考えている。</p> <p>(活動の様子、ワークシート)</p> <p>◎ 形を変えても面積は変わらないことを意識しながら、1 cm^2 の等積変形を考えたり、テーマに沿った 12 cm^2 の図形を考えている。</p>
	 <p>図 1</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ どの形も 1 cm^2 の単位をそのまま使うことができないので、(面積を変えずに、形を変えること = 等積変形) をして、面積を求めることに気付くよ 	
	<p>図 1 の (1) ~ (3) のそれぞれの面積を求めるには、どうしたらよいですか。</p> <p>□ 切りはなしでもいいの？</p> <p>・ 等積変形をして、正方形を作</p>		

<p>り出すことで面積の保存性について理解する。</p> <p>1平方センチメートルを、いろいろな形に変えてみよう。</p> <p>★拡大された等積変形の例を見て、方眼用紙上に1 c㎡の等積変形をする。</p>	<p>うにする。</p>  <ul style="list-style-type: none"> 直線だけでなく、曲線による例も出して、変形への興味をもてるようにする。 形を変えても、どれも1 c㎡であることを確認するようにする。 	<p>☆大きな正方形を、自由に切れさせ、切りはなした部分を別の部分につなぎ合わせる活動を通して、具体的に変形した図形を考えられるようにする。</p> <p>例 羊</p>  <p>例 UFO</p>  <p>例 蝸牛</p> 
<p>18</p>	<p>・ 掲示された正方形のカード 12 枚から、動物の名前を考える。</p> <p>これは、どんな動物に見えるでしょう。</p> <p>□ うさぎ</p> <p>このうさぎは、正方形 1 枚が 1 c㎡だとすると、何 c㎡ですか。</p> <p>□ 12 c㎡</p> <p>★ 12 c㎡の面積で、出されたテーマ（乗り物、動物など）の形を自由に考え、方眼紙上に描く。</p> <p>面積が 12 c㎡になる動物の形をつくろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間に余裕のある児童は、自由なテーマで 12 c㎡の形を考える。 	<p>例 うさぎ</p>  <p>例 蛇</p>  <ul style="list-style-type: none"> 正方形 12 枚を並べかえることで、動物の図をイメージ化してから、方眼紙上に書くように伝える。 自分の作っている形の面積が常に一定であることを注意するよう助言する。 例として、「十二支」や「UFO」の形を提示する。
<p>10</p>	<ul style="list-style-type: none"> 提示された蝸牛や蟹の形の広さを数字で表す。 教科書 P55 の①に取り組む。 時間に余裕のある児童は、用意された複数の補充問題を選択して、取り組む。 児童の言葉で、板書に本時の学習をまとめる。 次時のコース選択をする。 	<ul style="list-style-type: none"> マス目を数えることで、広さが求められることを確認する。 学習の振り返りを、ワークシートに書かせるようにする。 * 学習状況の自己評価をさせ、選択の目安を与えて、適正なコース選択ができるようにする。

第4時（4 / 13 時間）

○ねらい…観察や操作を通して、長方形、正方形の面積を求める公式を理解する。
 準備…色画用紙4枚、ワークシート、掲示用長方形・正方形、公式カード、
 ホワイトボード、補充問題プリント。

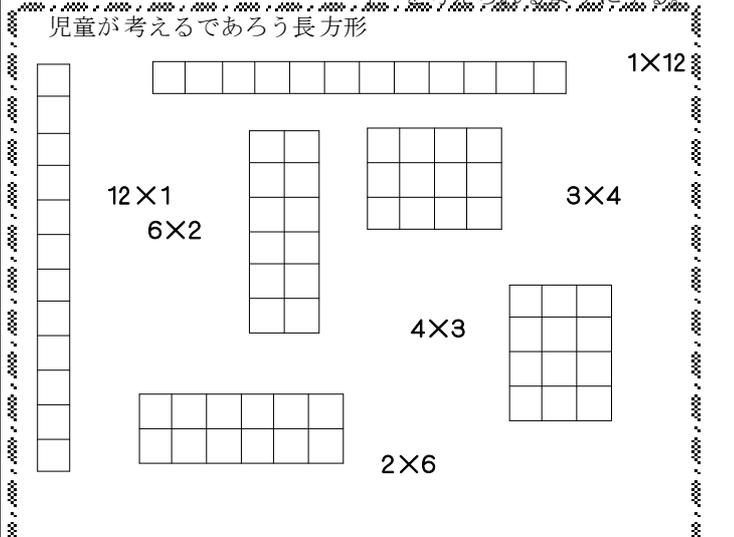
時 間	・主な児童の活動 □児童の予想される反応 ★数学的な考え方に気付く活動	・支援及び指導上の留意点 ＊コース選択に関わる手だて	○評価規準目(評価方法) ◎「十分満足できる」と判断される状況 ☆「努力を要する」児童への手だて
5	<ul style="list-style-type: none"> 前時の復習をする。 4枚の色画用紙を重ねてできる隙間の広がり方を見て考え、面積が二次元的に広がる量であることを理解する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 画用紙の間にできる隙間を見て、考えてみよう。隙間はどのくらい広がっていますか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> □隙間は、最初に縦に広がっていく。 □次に横に広がっていく。 <div style="text-align: center;"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 形を変えても面積が変わらない等積変形について確認する。 教室の前に児童を集め、左図のように教師が色画用紙を操作するのを間近で見て、隙間の広がりを実感させるようにする。 操作は以下のとおりである。 <ol style="list-style-type: none"> ①最初に「元となる 1 cm^2」を見せる。 ②次に隙間の縦の直線部分を示してから、両側の色画用紙を上下に開き、隙間が縦に伸びていく直線状の面を作る。 ③最後に、②でできた直線が横に広がっていき、最初の「点」から縦と横に広がった面を作る。 <p>この様子を繰り返し見せ、気付いたことを発表させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 色画用紙は工作用紙の上で操作をし、隙間の広がり、基になる広さ 1 cm^2 の広がりであることを意識できるようにする。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ★長方形の面積の求め方について考える。 2つの長方形の面積の差を考える。 別に掲示された図1の長方形の中の正方形の数を数える。 早く正方形の数を数える方法を考える。 <div style="text-align: center;"> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 2つのマス目の入った大きな長方形を提示し、どちらがどのくらい大きいかを考えることで、計算の必要性に気付かせたい。 正方形1つの大きさが 1 cm^2 であることに気付かせるようにする。 掲示された長方形が、1 cm^2 の正方形を敷き詰めてできていることを確認する。 かけ算を使って、数えることが、最も早いことに気付くよ 	<p>【数学的な考え方】</p> <p>○長方形や正方形の面積の求め方を、辺の長さに着目して考えている。 (活動の様子、ワークシート、ホワイトボード)</p> <p>◎長方形や正方形の面積を求めるには、関数関係にある縦、横の長さを測って求められることを単位の考えをもとに説明し、公式を導き出している。</p> <p>☆色画用紙を 1 cm^2 マスの方</p>

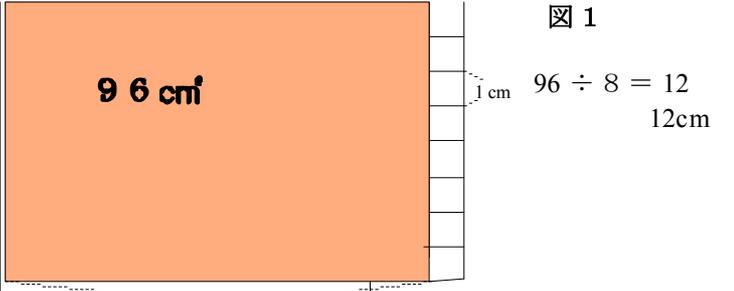
20	<p>4 個 × 7 個 = 28 個 4 cm × 7 cm = 28 c m²</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 長方形の面積が 28 c m²であることを確認する。 ・ 提示された正方形 図 2 の中の正方形の数を数える。  <p style="text-align: center;">図 2</p>	<p>うにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ホワイトボードを使い、自分の考えを発表できるようにする。 ・ 発表の過程で、子どもの発見を大きさに取り上げることで、満足感が高まるようにしたい。 ・ なぜ 28 c m²になるのか、理由を別の児童に答えさせるようにし、個人の思考を全体に共有化できるようにする。 ・ 正方形 1 個分の 1 辺が 1 cm であることを再び確認する。 ・ 長方形と同じ考え方でかけ算を使い、16 個分であると答えられるようにする。また、その理由を別の児童に答えさせるようにし、個人の思考を全体に共有化する。 	<p>眼の上に置き、最初の点である隙間を 1 c m²と考えることで、点が縦に何マス分、次に横に何マス分広がっていくことを確認し、面積を表すマス目の数が、縦マス × 横マスの計算で求められることに気付くようにする。</p>
15	<p>マス目のない長方形の面積を求めるには、どうすればよいですか。</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 縦の辺の長さを測る。 □ 横の辺の長さも測る。 ・ 長方形と正方形の面積の公式を言葉でまとめる。 <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>長方形の面積 = たて × 横 正方形の面積 = 1 辺 × 1 辺</p> </div> <p>★公式にまとめるよさを考える</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>面積を求める公式があると どんなことが便利ですか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の言葉で、板書に本時の学習をまとめる。 ・ 次時のコース選択をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2 cm × 3 cm などの小さい長方形を提示する。 ・ ホワイトボードを使い、自分の考えを発表できるようにする。 ・ 基になる 1 c m²の何個分かで面積が求められることを確認する。 ・ 縦 1 列分のマス目を横のマス目分用意し提示することで、長方形の辺の長さがわかれば面積が求められることに気付くようにする。 ・ 公式を板書としてまとめる。 ・ 以下の 2 つのことに気付かせたい。 <ol style="list-style-type: none"> ① 公式を使うことで、今後は長方形・正方形の面積がすぐに求められる。 ② 図形のどの部分の長さが分かれば公式が成立するのかがわかる。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 12 × 9、11 × 11 などの問題で公式が活用できるか、確認する。 	
5		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の振り返りを、ワークシートに書くように伝える。 * 学習状況の自己評価をさせ、選択の目安を与えて、適正なコース選択ができるようにする。 	

第5時（5 / 13 時間）

○ねらい…長方形、正方形の面積の公式を活用する活動を通して、面積から辺の長さを考えることができる。

準備…掲示用長方形、児童用長方形、児童用正方形（12枚1組）、ワークシート、補充問題プリント、公式カード、ホワイトボード。

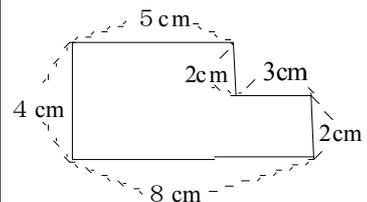
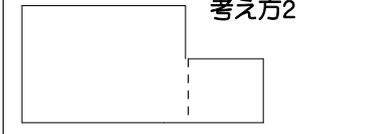
時 間	<p>・主な児童の活動</p> <p>□児童の予想される反応</p> <p>★数学的な考え方に気付く活動</p>	<p>・支援及び指導上の留意点</p> <p>* コース選択に関わる手だて</p>	<p>○評価規準（評価方法）</p> <p>◎「十分満足できる」と判断される状況</p> <p>☆「努力を要する」児童への手だて</p>
15	<p>・前時の復習として、教科書 P57 の①～②の問題に取り組む。</p> <p>・時間に余裕のある児童は、用意された複数の補充問題を選択して、取り組む。</p> <p>★提示された長方形の縦と横の長さを、その面積から考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>面積が 12 cm^2 になる長方形では、縦と横の長さは、どんな数になるか考えよう。</p> </div>	<p>・既習事項である、長方形の面積の公式を基にして、辺の長さを考えられるようにする。</p> <p>・ホワイトボードを使い、自分の考えを発表できるようにする。</p> <p>・時間に余裕のある児童には、長方形の6つのパターン全てを考えられるようにする。</p>	<p>【数学的な考え方】</p> <p>○ 12 cm^2 長方形の辺の長さの組み合わせを、単位量である 1 cm^2 に着目して考えている。</p> <p>◎面積を求める公式を応用して、長方形の辺の長さを、わり算に着目して考えている。</p> <p>(活動の様子、ホワイトボード、ワークシート)</p> <p>☆正方形 12 枚を渡し、長方形の形に敷き詰める活動を支援してから、縦・横の辺の長さを指で数えるよう助言する。</p>
25	<p>児童が考えるであろう長方形</p>  <p>・考えた縦と横の長さの場合を、発表する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>図 1 の (ア) の長さを求めるには、どうしたらよいですか。</p> </div>	<p>・友だちの発表を聞いた後、意図的な指名をして同じ内容を発表させ、聞いた考えの理解の状況を、何度も確認するようにする。</p> <p>・九九では辺の長さを直観的に求められないことに気づき、わり算を使うことで、長さが求められることに気付くようにする。</p>	<p>【表現・処理】</p> <p>○公式を用いて辺の長さを求めることができる。</p> <p>(活動の様子、ホワイトボード、ワークシート)</p>

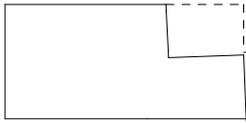
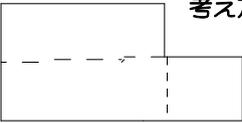
	<p style="text-align: center;">(ア)</p> <p>・教科書 P57 の③、④の問題に取り組む。</p>	<p style="text-align: center;">図 1</p>  <p style="text-align: center;">$96 \div 8 = 12$ 12cm</p> <p>・③の問題では、mm を cm に変換してから、計算できるように注意を促す。</p> <p>・時間に余裕がある児童は、複数の補充問題を選択して、取り組むようにする。</p>	<p>◎公式を用いて辺の長さを求めることができるとともに辺の長さの単位が異なる際には、cm をそろえてから計算することに自ら気付く。</p> <p>☆問題の条件をかけた算の公式にあてはめ、横の長さを求めるには、公式をわりにかえるよう助言する。</p>
5	<p>・児童の言葉で、板書に本時の学習をまとめる。</p> <p>・次時のコース選択をする。</p>	<p>・学習の振り返りを、ワークシートに書かせるようにする。</p> <p>* 学習状況の自己評価をさせ、選択の目安を与えて、適正なコース選択ができるようにする。</p>	

第6時（6 / 13 時間）

○ねらい…複合図形の求積方法の考え方を話し合う活動を通して、長方形に分割する考えや欠損部分をひく考え方に気付く。

準備…掲示用複合図形、児童用複合図形、ワークシート、ホワイトボード、公式カード、補充問題プリント。

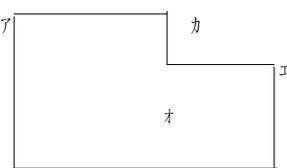
時 間	<p>・主な児童の活動</p> <p>□児童の予想される反応</p> <p>★数学的な考え方に気付く活動</p>	<p>・支援及び指導上の留意点</p> <p>* コース選択に関わる手だて</p>	<p>◎評価規準（評価方法）</p> <p>◎「十分満足できる」と判断される状況</p> <p>☆「努力を要する」児童への手だて</p>
3 20	<p>・前時の復習をする。</p> <p>・長方形、正方形の面積の公式を発表する。</p> <p>下の図の面積の求め方を、考えよう。</p> <p>★掲示された複合図形の面積の求め方を考える。</p> 	<p>・公式から、長方形、正方形の面積を基にして辺の長さを求める方法を確認する。</p> <p>・以下の3つの方法に気付かせたい。</p> <p>考え方1</p>  <p style="text-align: center;">$2 \times 8 + 2 \times 5 = 26$</p> <p>考え方2</p>  <p style="text-align: center;">$4 \times 5 + 2 \times 3 = 26$</p>	<p>【関心・意欲・態度】</p> <p>○既習事項である公式を想起して、公式を用いて複合図形の面積を求めようとしている。</p> <p>◎既習事項である公式を想起して、長方形や正方形に分割などをして面積を求める方法をいくつか考えようとしている。</p> <p>(活動の様子、ホワイトボード)</p>

<p>★ 1つ考え方ができた場合、別の求め方を考える。</p>	<div style="text-align: center;">  <p>考え方3</p> $4 \times 8 - 2 \times 3 = 26$ </div> <div style="text-align: center;">  <p>考え方4</p> $2 \times 5 + 2 \times 5 + 2 \times 3 = 26$ </div>	<p>下、ワークシート)</p> <p>☆公式を使って求積できる図形を想起させ、児童用の複合図形で、その長方形や正方形に見える部分を考えるよう助言する。</p>
<p>15</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えをホワイトボードを使って、発表する。 友だちの発表を聞き、3通りの求め方を理解し、それぞれの方法をワークシートにまとめる。 自分にとって最も簡単な方法はどれかを考え、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> 求積方法の多様な考え方に気付くようにする。 友だちの発表を聞いた後、説明能力をつけさせるために、意図的な指名をして同じ内容を発表させ、聞いた考えの理解の状況を、繰り返し何度も確認するようにする。 簡単な方法の根拠となる部分を自分の言葉で発表するよう指示する。 	
<p>7</p> <ul style="list-style-type: none"> 用意した複数の補充問題を選択して、取り組む。 児童の言葉で、板書に本時の学習をまとめる。 次時のコース選択をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習の振り返りを、ワークシートに書くよう伝える。 * 学習状況の自己評価をさせ、選択の目安を与えて、適正なコース選択ができるようにしたい。 	

第7時（7 / 13 時間）

○ねらい…複合図形の求積方法を考え、話し合う活動を通して、長方形の面積をもとにして求め方を理解する。

準備…掲示用複合図形、児童用複合図形、ワークシート、ホワイトボード、公式カード、補充問題プリント。

時 間	<p>・主な児童の活動</p> <p>□児童の予想される反応</p> <p>★数学的な考え方に気付く活動</p>	<p>・支援及び指導上の留意点</p> <p>* コース選択に関わる手だて</p>	<p>○評価規準（評価方法）</p> <p>◎ 「十分満足できる」と判断される状況</p> <p>☆ 「努力を要する」児童への手だて</p>
	<p>長方形の土地と複雑な形の土地があって、どちらか広い方に家を建てようと思います。広さを比べるには、どうしたらよいでしょうか。</p> <p>□長方形の方が広くない。</p>	<p>図 長さの書かれていない複合図形の土地</p> 	

	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの辺の長さを測り、3つの方法で求積する。 <p>★最も簡単な求積方法はどれかを考え、その理由を発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> うにする。 板書の問題と同じ図形をワークシート上に用意し、3通りの求積ができるようにする。 考え方4については、同じ長さを測っているので、必要な辺は4本で変わらないことに気付くようにする。 自分の考えの根拠を、理由を踏まえて発言できるよう助言する。 	
12	<ul style="list-style-type: none"> より複雑な複合図形の面積を求める。 教科書P58の⑤に取り組む。 ⑤の問題ができた児童には、用意された複数の補充問題を選択して、取り組む。 児童の言葉で、板書に本時の学習をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 正確に求積できているのか確認するために、一人ずつ机間支援をする。 学習の感想を、ワークシートに書くよう伝える。 	<p>【表現・処理】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○複合図形の面積を求めることができる。 (活動の様子、ホワイトボード、ワークシート) ◎複合図形の面積を様々な方法で求めることができる。 ☆基になる長方形が複合図形のどの部分になるのかを考えられるよう助言する。

第8時（8 / 13 時間）

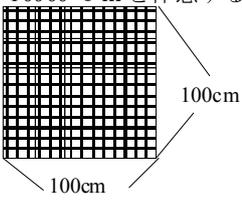
○ねらい…ミニテストやドリル演習を通して、既習事項に習熟する。
準備…補充問題プリント、発展問題プリント。

時 間	主な児童の活動 □児童の予想される反応 ★数学的な考え方に気付く活動	支援及び指導上の留意点 *コース選択に関わる手だて	○評価規準（評価方法） ◎「十分満足できる」と判断される状況 ☆「努力を要する」児童への手だて
	学 級 T T 指 導		
40	<ul style="list-style-type: none"> 学習内容の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> おおむね満足できると判断される児童には、用意した複数の補充・発展問題を選択して、取り組めるようにする。 努力を要すと判断される児童には、2人の教師が連携を図りながら、基礎基本の定着に努めるようにする。 	<p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○学習した考え方をを使って、問題を解こうとしている。 (活動の様子、ワークシート) ◎これまでの学習プリントを見返したり、友だちや教師に質問したりして、最後まで問題を解こうとしている。 ☆学習プリントから、ヒントを探してみるように助言する。
5	<ul style="list-style-type: none"> これまでの学習を振り返りながら、次時のコース選択をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 第9時以降のより広い広さの学習につながるように、「どんな広さの勉強がしたいですか」という項目を、ワークシートに用意しておく。 学習状況の自己評価をさせ、選択の目安を与えて、適正なコース選択ができるようにする。 	

第9時（9 / 13 時間）

○ねらい…方眼紙で 1 m^2 を作る操作活動を通して、面積の単位 1 m^2 や m^2 と c m^2 の関係について理解する。

準備…方眼紙（ 100×100 に切ったもの）、ワークシート、模造紙（線のあるもの）、のりはさみ。

時 間	<p>・主な児童の活動</p> <p>□児童の予想される反応</p> <p>★数学的な考え方に気付く活動</p>	<p>・支援及び指導上の留意点</p> <p>* コース選択に関わる手だて</p>	<p>○評価規準（評価方法）</p> <p>◎「十分満足できる」と判断される状況</p> <p>☆「努力を要する」児童への手だて</p>
<p>習熟度別少人数指導（1学級分割）</p>			
10	<p>・ 1 c m^2 より大きい単位の必要性について、考える。</p> <p>教室の広さを c m^2 の単位で表してみたい。どうすればいいのかな。</p> <p>・実際に教室の縦と横の長さを測り、何 cm であるか知る。</p> <p>□ c m^2 のままでいい。</p> <p>□ もっと広い範囲を表す単位があれば便利だと思う。</p>	<p>・ c m^2 で表すことがたいへんな広さを実感させ、より大きい単位の必要性を考えさせる。</p> <p>・ 1 c m^2 は1辺が 1 cm の正方形が表す広さということを確認する。</p>	
33	<p>・ 1 c m^2 の上の単位を予想する。</p> <p>・ 1 m^2 が何 c m^2 であるか予想する。</p> <p>□ 1 m^2 は 100 c m^2 だと思う。</p> <p>・ 100 c m^2 の正方形の1辺の長さを考える。</p> <p>・ m^2 と c m^2 の関係について理解するために、1 m^2 の広さを方眼紙で作る。</p> <p>1 m^2 の広さを作るのに、方眼紙は、何枚必要でしょう。</p> <p>・ 1枚 100 c m^2 の方眼紙をグループで組み合わせ、1 m^2 の広さの正方形を作り、$1\text{ m}^2 = 10000\text{ c m}^2$ を体感する。</p>  <p>・ 全部の班で作業が終了したら、100×100 で、1 m^2 の中に 1 c m^2 が1万個あることを全員で確認する。</p> <p>・ できた 1 m^2 に座るなどして、その量感を味わう。</p>	<p>・ $1\text{ m} = 100\text{cm}$ という長さの考えから離れるため、面積は縦と横の長さで決まるということを確認できるようにする。</p> <p>・ 100 c m^2 は1辺が 10cm の正方形であることを確認し、1 m^2 より小さすぎるのがわかるようにする。</p> <p>・ 作業は4人程度のグループで行う。</p> <p>・ 1つのグループに 100 枚以上の方眼紙を用意する。（方眼紙は1枚、$10\text{ cm} \times 10\text{cm}$。）</p> <p>・ いきなり作業に入らず、$1\text{ m}^2$ の縦と横の長さを再度確認するようにする。</p> <p>・ 方眼紙をなるべく無駄なく使うように言葉かけをする。</p> <p>・ 方眼紙を敷き詰めさせてから、模造紙に貼るよう指示する。</p> <p>・ 作業時間を次時まで十分保障することで、どのグループも作り上げられるように、最後まで頑張らせる。</p> <p>・ 作業の早い児童には、復習できるよう学習プリントを複数用意する。</p>	<p>【数学的な考え方】</p> <p>○ 100 c m^2 の方眼紙を縦におよそ何枚、横におよそ何枚敷き詰めたらよいか、考えている。 (活動の様子、方眼紙の 1 m^2 ワークシート)</p> <p>◎ 100 c m^2 の方眼紙を縦におよそ何枚、横におよそ何枚組み合わせるのかあらかじめ見当をつけ、必要な方眼紙を用意して作業している。</p> <p>☆ 1 m^2 の長さは1つの辺が何 cm になるのか確認し、1辺が 10cm の正方形をその1辺敷いてみることで 100 c m^2 の方眼紙が何枚ぐらい必要か考えられるようにする。</p>
2	<p>・ 児童の言葉で、板書に本時の学習をまとめる。</p>	<p>・ 学習の振り返りを、ワークシートに書くように伝える。</p>	

第 10 時 (10 / 13 時間)

○ねらい…地図上に、大きい単位面積を考えて書き込む活動を通して、面積の単位「平方メートル ($k m^2$) や $k m^2$ と m^2 の関係について理解する。

準備…東横野小を中心とした地図。地図内に置く正方形。ワークシート。

時 間	・主な児童の活動 <input type="checkbox"/> 児童の予想される反応 ★ 数学的な考え方に気付く活動	・支援及び指導上の留意点 ＊ コース選択に関わる手だて	○ 評価規準 (評価方法) ◎ 「十分満足できる」と判断される状況 ☆ 「努力を要する」児童への手だて
10	<p style="text-align: center;">習熟度別少人数指導 (1 学級分割)</p> <ul style="list-style-type: none"> 前時の復習をする。 東横野小学校の校庭が何 $c m^2$ であるかを知る。 より広い広さである東横野地区を表すことについて考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> 東横野地区の広さを表すには、m^2 の単位を使えばいいのでしょうか。 </div> <input type="checkbox"/> もっと広い範囲を表す単位が必要だと思う。 <ul style="list-style-type: none"> $1 m^2$ より広い広さを学習することを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> 前時の作業が全員終わってから、本時の課題に取り組めるようにする。 $1 m^2$ より広い広さを表す必要性を考えられるようにする。 	
20	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> $1 m^2$ より広い単位は、どんな単位だと思いますか。 </div> <input type="checkbox"/> $1 k m^2$ ★ $1 k m^2$ という言葉から、その広さを予想し、何 m^2 か考える。 $1 k m^2 = 1000000 m^2$ <ul style="list-style-type: none"> $1 k m^2$ の広さを実感するため、会議室にある東横野地区の地図に $1 k m^2$ の範囲を表す正方形の枠をあてて、その広さを確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> $1 k m^2$ の正方形の 1 辺の長さを考えるようにする。 会議室の地図は、児童の家が元々記載されているものなので、$1 k m^2$ の広さがより実感できると思われる。 活動の興味・関心を高めるために、自分の家を中心とした $1 k m^2$ の正方形の枠の内にある、同学年の友だちの家を調べさせる。 地図上に記された直線が、実際の $1000 m$ の長さを表すことを確認するようにする。 地図上の学校や病院などの建物の位置を確認しながら、実際の $1 k m^2$ の広さをイメージできるようにする。 	<p>【知識・理解】</p> <p>○ $k m^2$ と m^2 の関係を理解している。</p> <p>(活動の様子、ワークシート)</p> <p>◎ m^2 と $c m^2$、$k m^2$ と m^2 の関係を理解し、a や ha も含んだ簡単な単位換算ができる。</p> <p>☆ 百マスある正方形を見せ、その 1 マス分の辺の長さの条件を変えた場合、正方形が表す広さを考えられるよう助言する。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> $1 a$ という言葉と $1 a = 100 m^2$ ということを知る。 $1 ha$ という言葉と、$1 ha = 10000 m^2$ ということを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> $1 a$ は、1 辺の長さが $10 m$ の正方形であること、$1 ha$ は正方形の 1 辺の長さが $100 m$ であることを知り、$1 a$ や $1 ha$ の正方形も地図にあてることで、その広さも確認できるようにする。 	
	・教科書 P60 の③④、P61 の☆の問題に取り組む。	・時間に余裕のある児童には、用意した複数の補充問題を選	

10	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の言葉で、板書に本時の学習をまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援及び指導上の留意点 ・学習の振り返りを、ワークシートに書くよう伝える。
----	--	---

第 11 時 (11 / 13 時間)

○ねらい…ミニテストやドリル演習を通して、既習事項に習熟する。

準備…補充問題プリント、発展問題プリント。

時 間	<ul style="list-style-type: none"> ・主な児童の活動 □児童の予想される反応 ★数学的な考え方に気付く活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援及び指導上の留意点 *コース選択に関わる手だて 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価規準 (評価方法) ◎「十分満足できる」と判断される状況 ☆「努力を要する」児童への手だて
45	<p style="text-align: center;">学 級 T T 指 導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書の練習問題「力をつけよう」や「おもしろ問題にチャレンジ」に取り組み、学習内容の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね満足できると判断される児童には、用意した複数の補充・発展問題を選択して、取り組めるようにする。 ・努力を要すると判断される児童には、2人の教師が連携を図りながら、基礎基本の定着に努めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【関心・意欲・態度】 ○学習した考え方をを使って、問題を解こうとしている。 ◎これまでの学習プリントを見返したり、友だちや教師に質問したりして、最後まで問題を解こうとしている。 ☆学習プリントから、ヒントを探してみるように助言する。

第 12 時 (12 / 13 時間)

○ねらい…ミニテストやドリル演習を通して、既習事項に習熟する。

準備…補充問題プリント、発展問題プリント。

時 間	<ul style="list-style-type: none"> ・主な児童の活動 □児童の予想される反応 ★数学的な考え方に気付く活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援及び指導上の留意点 *コース選択に関わる手だて 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価規準 (評価方法) ◎「十分満足できる」と判断される状況 ☆「努力を要する」児童への手だて
45	<p style="text-align: center;">学 級 T T 指 導</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習内容の理解を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・おおむね満足できると判断される児童には、用意した複数の補充・発展問題を選択して、取り組めるようにする。 ・努力を要すると判断される児童には、2人の教師が連携を図りながら、基礎基本の定着に努めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 【関心・意欲・態度】 ○学習した考え方をを使って、問題を解こうとしている。 ◎これまでの学習プリントを見返したり、友だちや教師に質問したりして、最後まで問題を解こうとしている。 ☆学習プリントから、ヒントを探してみるように助言する。

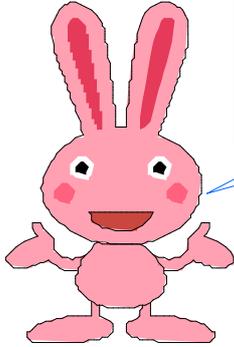
第 13 時 (13 / 13 時間)

時 間	<ul style="list-style-type: none"> ・主な児童の活動 □児童の予想される反応 ★数学的な考え方に気付く活動 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援及び指導上の留意点 *コース選択に関わる手だて 	<ul style="list-style-type: none"> ○評価規準 (評価方法) ◎「十分満足できる」と判断される状況 ☆「努力を要する」児童への手だて
	○評価テストに取り組む。		

Ⅱ 算数学習プリント

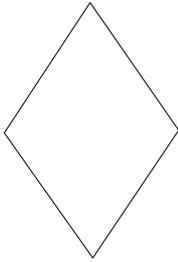
学習プリント1(4年生全体) No.1 第1時

4年 組 名前 _____

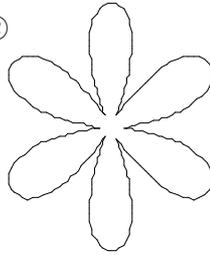


下の図①～③の広さの部分を、色えんぴつでぬってみよう。

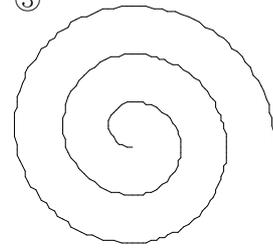
①



②



③

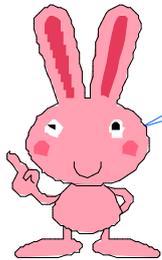


広さには、

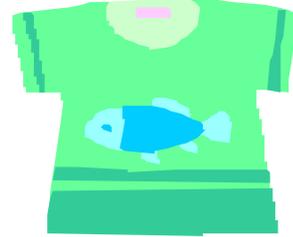
どんな小さなものにも

学習プリント1(4年生全体) No.2 第1時

4年 組 名前



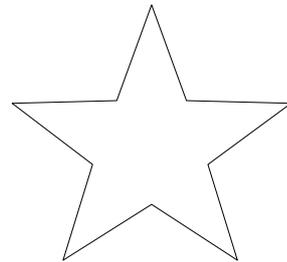
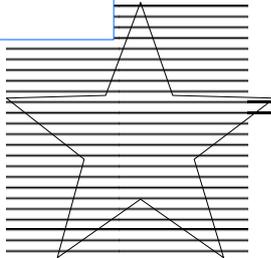
2まいのTシャツの広さを
比べるには、どうしたらいい
かな。



自分の考え	
-------	--



前の黒板の☆と後ろの黒板の
☆の広さを比べるには、ど
うしたらいいかな。



自分の考え	
-------	--

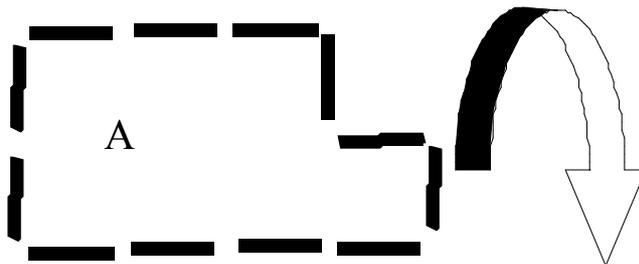
学習プリント1(4年生全体) No.3 第1時

4年 組 名前 _____

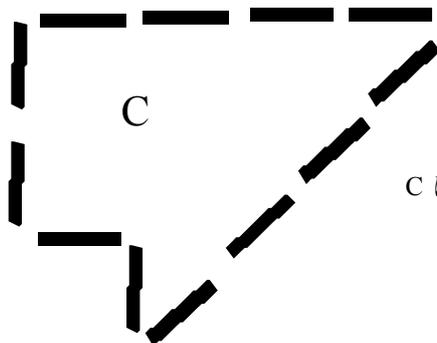
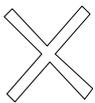
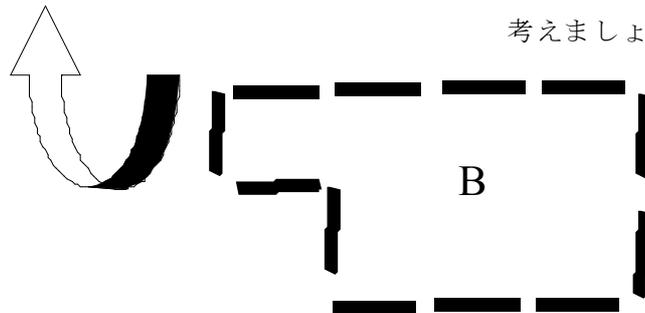
数えぼう12本をつかって、広さの
決まる形を考えよう。
ぼうとぼうをつなげるとこは、まっ
すぐか、直角にしてください。なな
めはダメですよ。



例



AとBは、同じと
考えましょう。

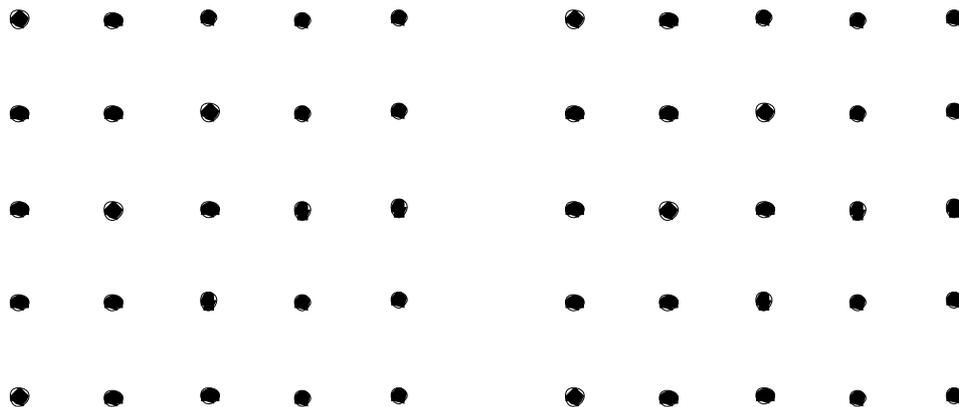
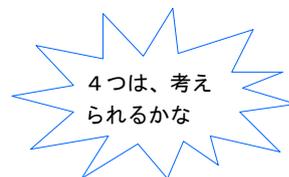
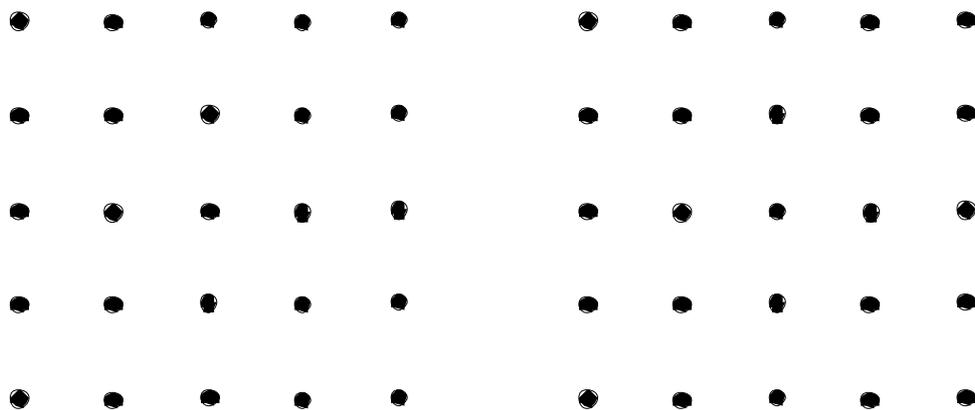


Cは ぼうをななめにつかっているので、
ダメな例です。

数えぼうをつくえにおいてみて、
できあがった形を下にかいてみよう。

名前 _____

◎点と点をむすんで、できあがった形をかいてみよう。



学習プリント2（4年生全体）No.4 第2時

4年 組 名前 _____

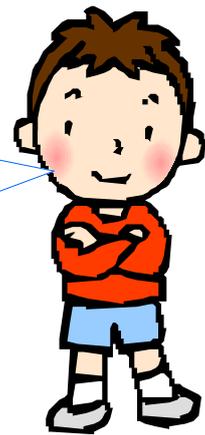
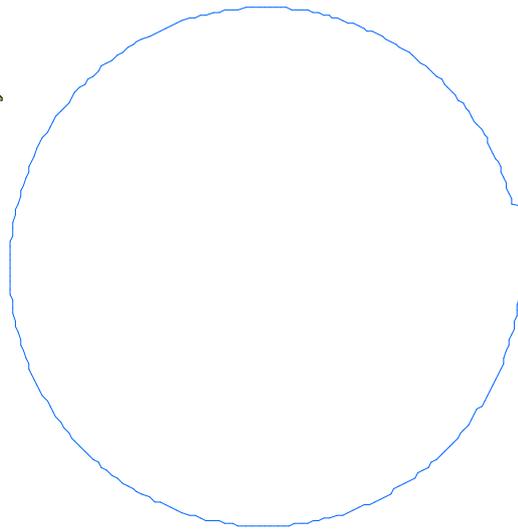
陣取りゲームのルール

- (1) 2人で1組で対戦します。
- (2) 最初にじゃんけんをして、勝った人が先に紙でできた陣地をえらんでおきます。
- (3) 次にじゃんけんでは負けた人が陣地をえらんでおきます。
- (4) じゃんけんは全部で5回します。
- (5) 最後に広い陣地をとった方が勝ちです。

陣地はあとで、のりではりつけておきましょう。



自分の陣地とあいての陣地の広さを比べるには、どうしたらいいかな。自分の考えを書いてみよう。



学習プリント2（4年生全体）No.5 第2時

4年 組 名前



みんなが陣地として使ったのは、きのう
12本の数えぼうでつくった形です。
全部で25種類もあります。

まわりの長さが同じでも、できた図形の



◎広さを数で表したものを といいます。

◎陣取りゲームで、
自分の陣地を数えるのに基にした広さを

といい、

と書きます。



ここにはりつけよう。

学習プリント3（基礎コース） No.6 第3時

4年 組 名前 _____

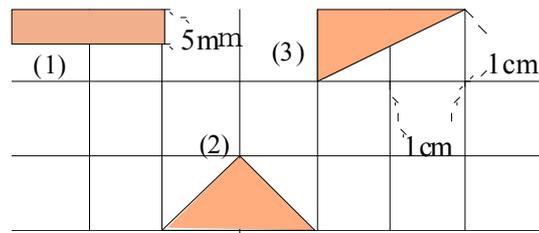
前回の授業で学習したこと

◎広さを数で表したものを といいます

◎たて1 cm、横1 cmの正方形の面積を

と書きます

(1)、(2)、(3)の面積を
求めるには、どう
したらいいでしょう
か。



(1)

(2)

(3)

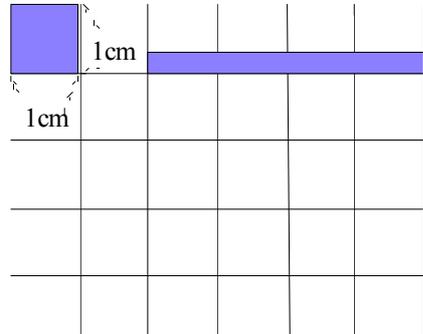
学習プリント3（基礎コース）No.7 第3時

4年 組 名前 _____



1 cm²をいろいろな形に変えてみよう。

例

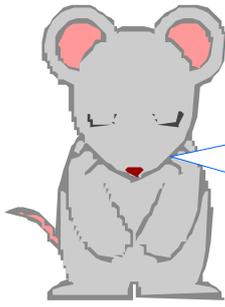


ここに方眼紙をはろう。いろいろな1 cm²をかいてみよう。

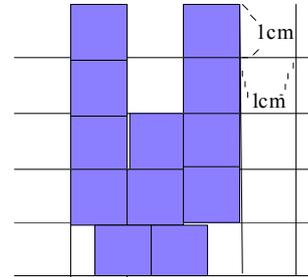


学習プリント3（基礎コース） No.8 第3時

4年 組 名前 _____



面積が 12 cm^2 になる、動物の形を方眼紙の上にかいてみよう。右の形は何に見えるかな？



ここに方眼紙をはろう



前回の授業で学習したこと

◎図形の面積は、が



分あるかで、求めることができます。



色画用紙のすきまは、
(1)~(3)にいくにしたが
って、どうかわっていく
のでしょうか。



(1)



最初は、すきまは
小さな



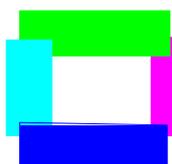
(2)



次にすきまは、



(3)



次にすきまは、

学習プリント4（基礎コース） No.10 第4時

4年 組 名前 _____

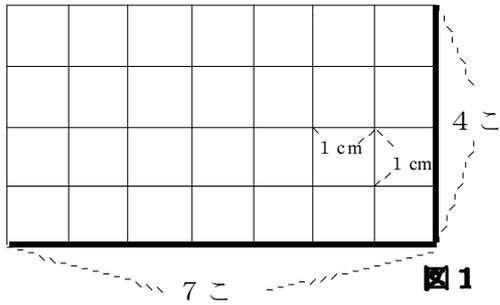


図1の長方形の中には、正方形がいくつあるかな。



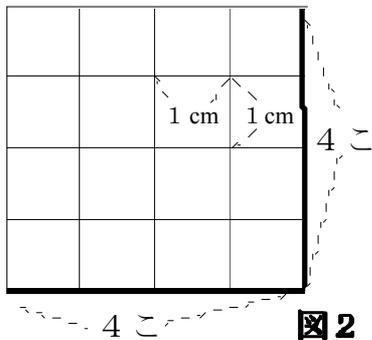
長方形の中に正方形は、_____あります。

_____算をつかうと早く数えられます。

長方形の中の正方形の1辺は、_____です。

つまり、この長方形の面積は _____ で、

_____ cm^2 です。



大きな正方形の中には、

小さな正方形が _____ あります。

これも _____ 算をつかうと

早く数えられます。

図2の大きな正方形の1辺は、_____です。

つまり、この大きな正方形の面積は、



図2の大きな正方形の中には、小さな正方形がいくつあるかな。

で、

_____ cm^2 です。

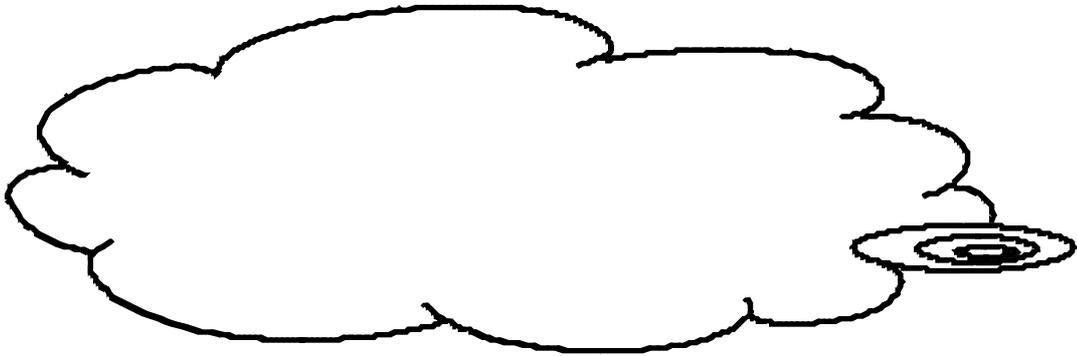
学習プリント4（基礎コース）No.11 第4時

4年 組 名前 _____

ここにはろう

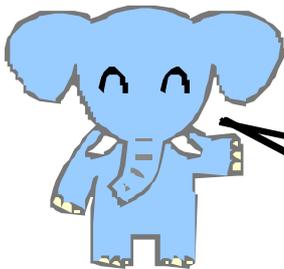


マスがかいていない
長方形の面積は、ど
うやってもとめたら
いいでしょうか。



長方形の面積

正方形の面積



公式にあてはめれば

学習プリント5（基礎コース）No.12 第5時

4年 組 名前 _____

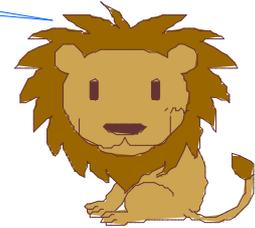
前回の授業で学習したこと

◎長方形の面積＝

◎正方形の面積＝

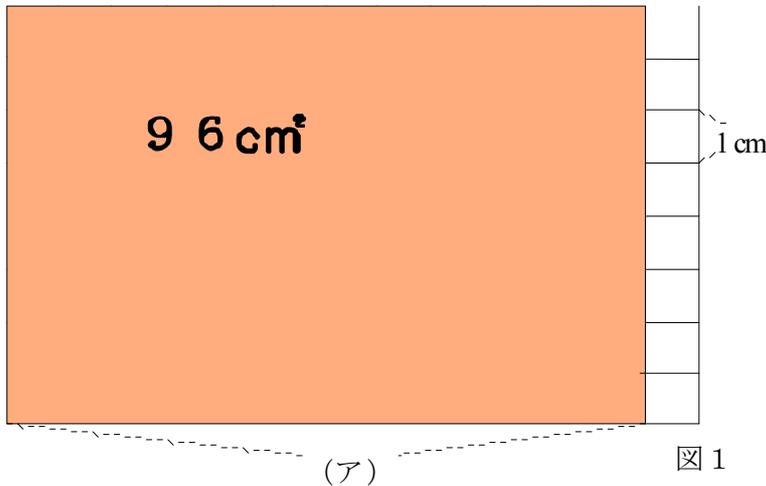
面積が 12 cm^2 になる長方形では、たてと横の長さは、どんな数になるでしょうか。

考えた長方形の形を、方眼紙にかいて、ここにはってみよう。



学習プリント5（基礎コース） No.13 第5時

4年 組 名前



左の図1の(ア)の長さは、何cmでしょうか。答の求め方を考えていこう。



◎この長方形の面積は、_____。

小さな正方形は_____で、1辺が1cmだから、

長方形のたての長さは正方形_____マス分で_____cm。

長方形の面積=_____という公式は

_____算だから、
_____算をつかえば、(ア)の長さは求められる。

式

答 _____

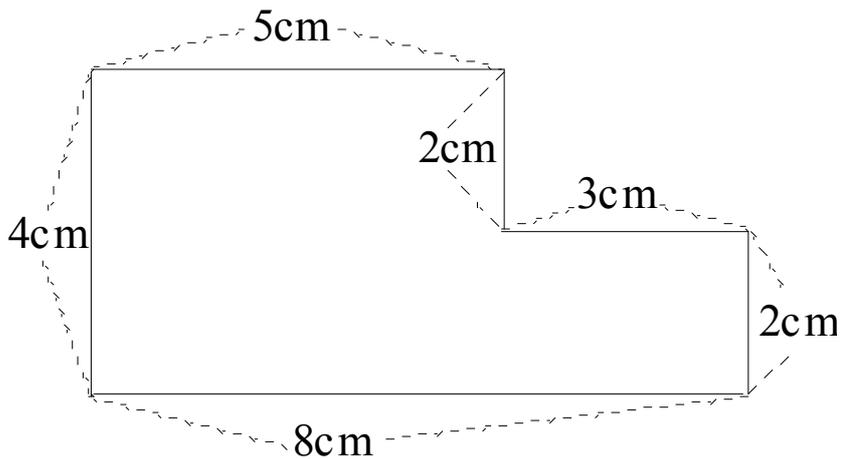
学習プリント6 (カニ座コース) No.14 第6時

4年 組 名前 _____

前回の授業で学習したこと

◎長方形の横の長さ＝

◎長方形のたての長さ＝



左の図の面積の求め方を考えよう。

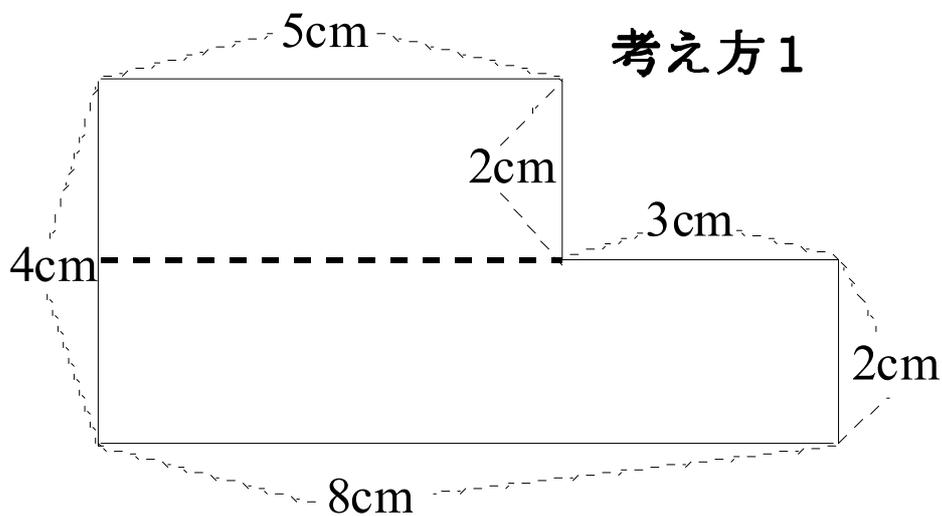


式

答 _____ cm^2

学習プリント6（基礎コース） No.15 第6時

4年 組 名前



左の「考え方1」の方法で、面積を求めてみよう。

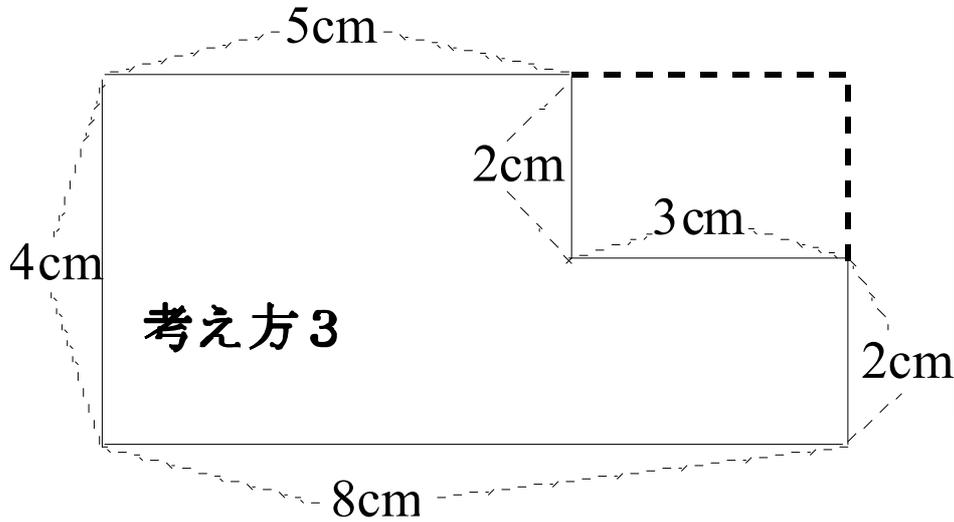


式

答 cm^2

学習プリント6（基礎コース）No.17 第6時

4年 組 名前



左の「考え方3」の方法で、面積を求めてみよう。

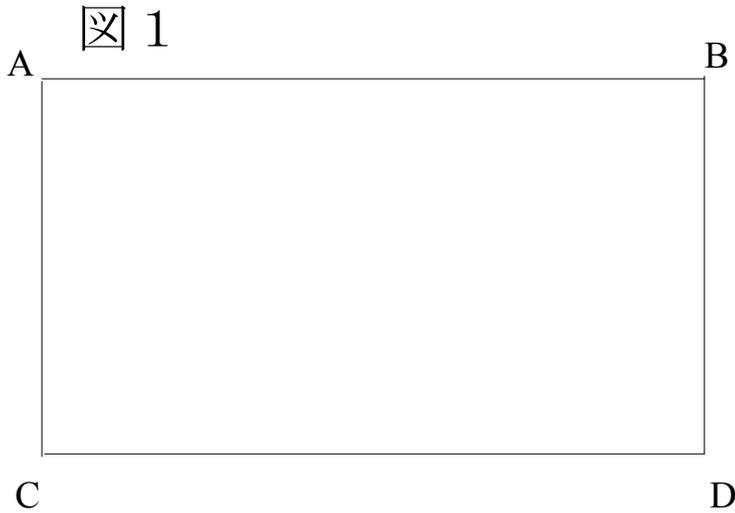


式

答 cm^2

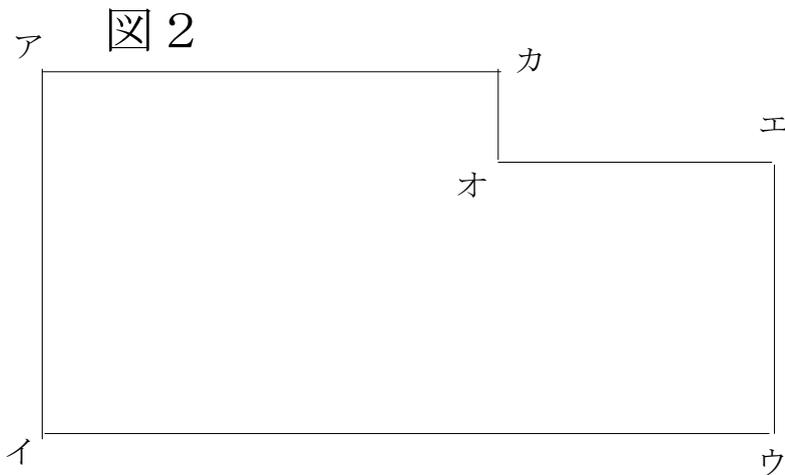
学習プリント7（基礎コース） No.18 第7時

4年 組 名前



先生の友だちが、今度土地を買って家を建てることになりました。2つこうほがあって、左の図1と図2です。

より広い方に家を建てたいのですが、どちらが広いかはっきりさせるには、どうしたらいいかな。



学習プリント7（基礎コース） No.19 第7時

4年 組 名前

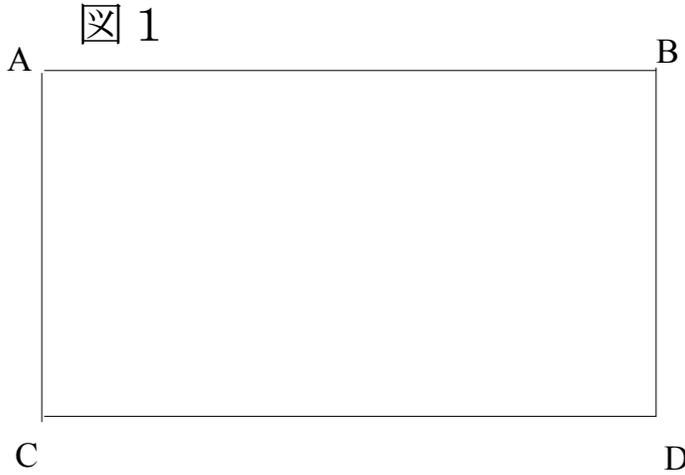


図1の面積を求めるには、
さいてい何本の
辺の長さが
わかればいい
でしょう。



図1は、さいてい _____ 本の辺がわかれば、面積が求められる。

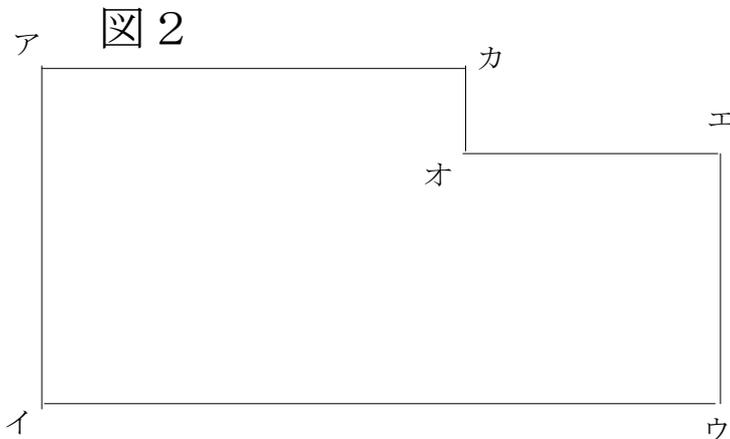


図2の面積を求めるには、
さいてい何本の辺
の長さが
わかれば
いいでし
ょう。



図2は、さいてい _____ 本の辺がわかれば、
面積が求められる。

_____ 本では求められない。

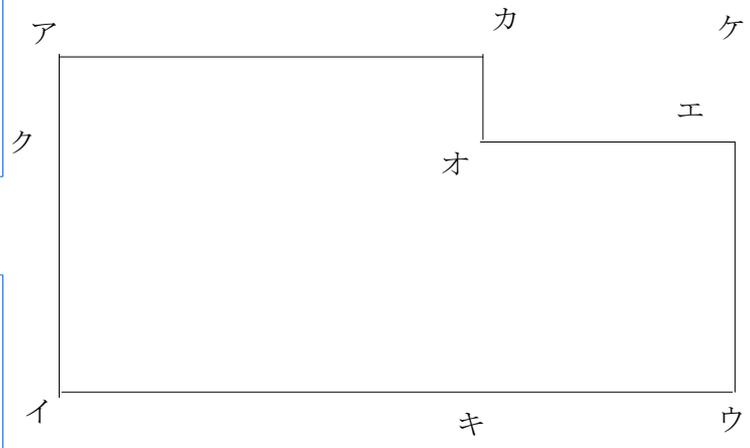
学習プリント7（基礎コース）No.20 第7時

4年 組 名前 _____

面積をもとめるために、長さがひつような辺に色をぬろう。

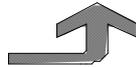


色をぬった辺で面積が求められる長方形を右にかこう。



長方形 _____ 長  方形 _____

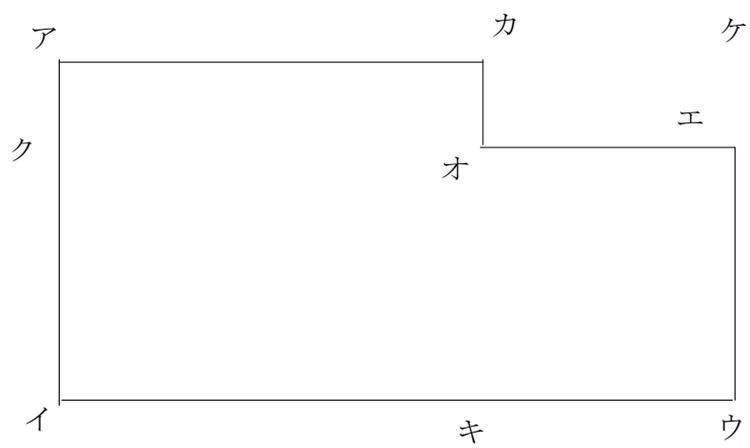
この記号は何かな



面積をもとめるために、長さがひつような辺に色をぬろう。



色をぬった辺で面積が求められる長方形を右にかこう。



長方形 _____  長方形 _____

この記号は何かな



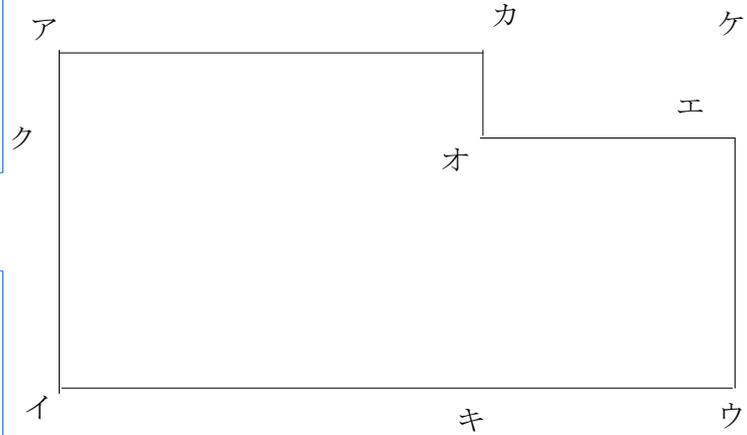
学習プリント7 (基礎コース) No.21 第7時

4年 組 名前 _____

面積をもとめるために、長さがひつような辺に色をぬろう。



色をぬった辺で面積が求められる長方形を右にかこう。



長方形 _____ 長  方形 _____

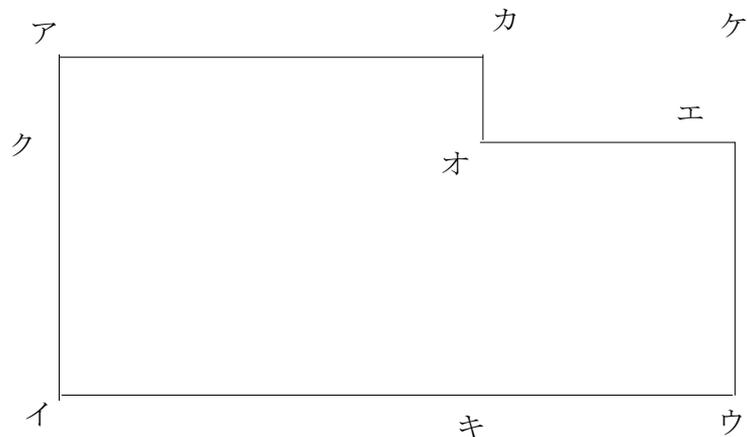
この記号は何かな

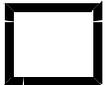
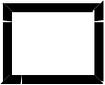


面積をもとめるために、長さがひつような辺に色をぬろう。



色をぬった辺で面積が求められる長方形を右にかこう。



長方形 _____  _____ 長方形 _____  _____

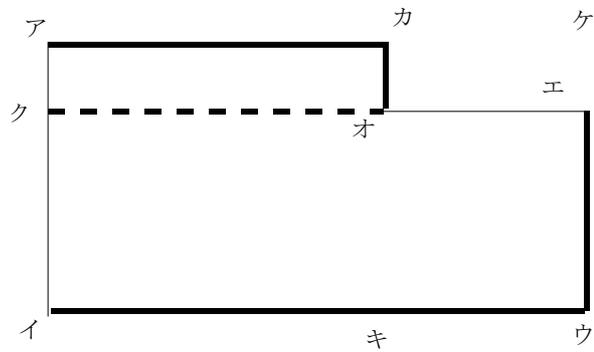
□の中の記号は何かな

長方形 _____

学習プリント7（基礎コース） No.22 第7時

4年 組 名前 _____

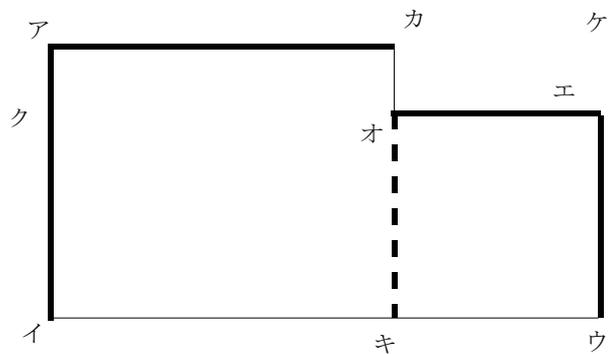
黒板にかかれた数字を使って、右の図の考え方で面積を求めよう。



式

答 _____

黒板にかかれた数字を使って、右の図の考え方で面積を求めよう。



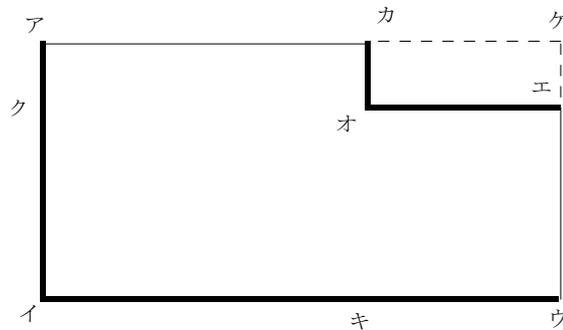
式

答 _____

学習プリント7（基礎コース）No.23 第7時

4年 組 名前 _____

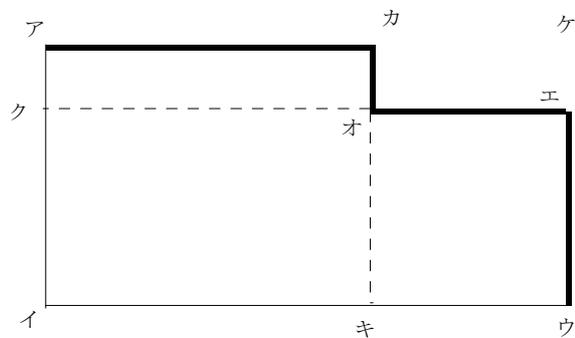
黒板にかかれた数字を使って、右の図の考え方で面積を求めよう。



式

答 _____

黒板にかかれた数字を使って、右の図の考え方で面積を求めよう。



式

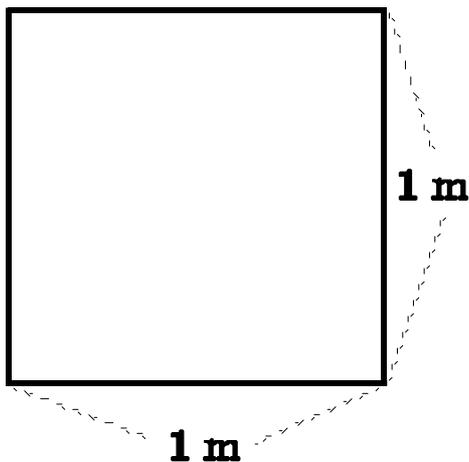
答 _____

学習プリント8（基礎コース）No.24 第9時

4年 組 名前 _____

◎これまでの勉強では、（ ）が、面積を求めるときの基になる広さでした。今日から、もう少し大きい広さを勉強をします。

左の図の広さは何ていうのかな。



1 m 左の図の広さは、

()



とって、() と書きます。

この正方形は1辺が1 mですから、

1 辺の長さは (c m) と言えます。

◎今日は、4人一組でグループを作って、
この () を方眼紙で作りたいと思います。

◎この (1) は、何 $c m^2$ でしょうか。

式 _____ c m × _____ c m = _____ c m²

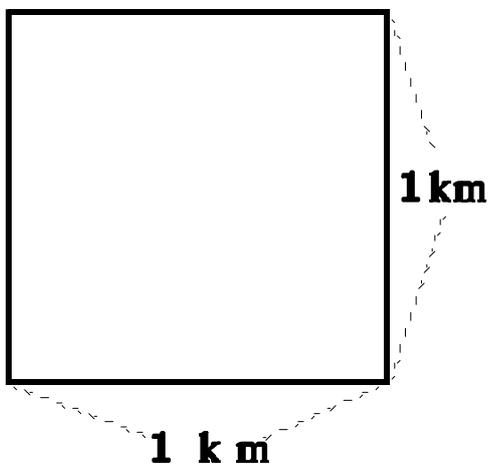
ではグループを作って、
白い大きな紙の上に方眼紙をはって $1 m^2$ をつくりましょう。

学習プリント9（基礎コース） No.25 第10時

4年 組 名前 _____

前回の授業で学習したこと

◎ $1 \text{ m}^2 =$ _____ c m^2 ← 1 辺が 100cm の正方形だから



今日はもっと、
広い面積を表す
単位を学習しま
す。



◎上の正方形は、1 辺が 1 k m の長さです。

この広さを、() といい、
() と書きます。

この単位は () や () などの
ような広いところの面積を表すのに使います。

◎この、(1 _____) の広さを、 m^2 で表したいと思います。

◎ 1 k m^2 は、何 m^2 でしょうか。

ヒント：1 k mは何mかを考えよう。

式 _____ m × _____ m = _____ m^2

学習プリント9（基礎コース） No.26 第10時

4年 組 名前 _____



◎会議室で、東横野地区の地図を見ながら学習します。
あなたの家から 1 km^2 以内に
住んでいる同じ東横野小の4
年生の名前を書いてください。

[]

◎畑や田んぼなどの面積を表すときに、() や () という単位を使うこともあります。

◎ () にあてはまる面積の単位を考えて書きましょう。

(1) サッカーコート面積を表すとき…… ()

(2) 北海道面積を表すとき…… ()

(3) 教科書面積を表すとき…… ()

(4) シャーペンのしんの先っぽ面積を表すとき
…… ()



これはまだ学習していません。